

「with コロナ」で、調理の負担が増えた人 82.4%

家事の手伝いが増えた割合、子ども 40.2%、夫 30.0%

活躍した調理家電は「ホームベーカリー」と「ホットプレート」

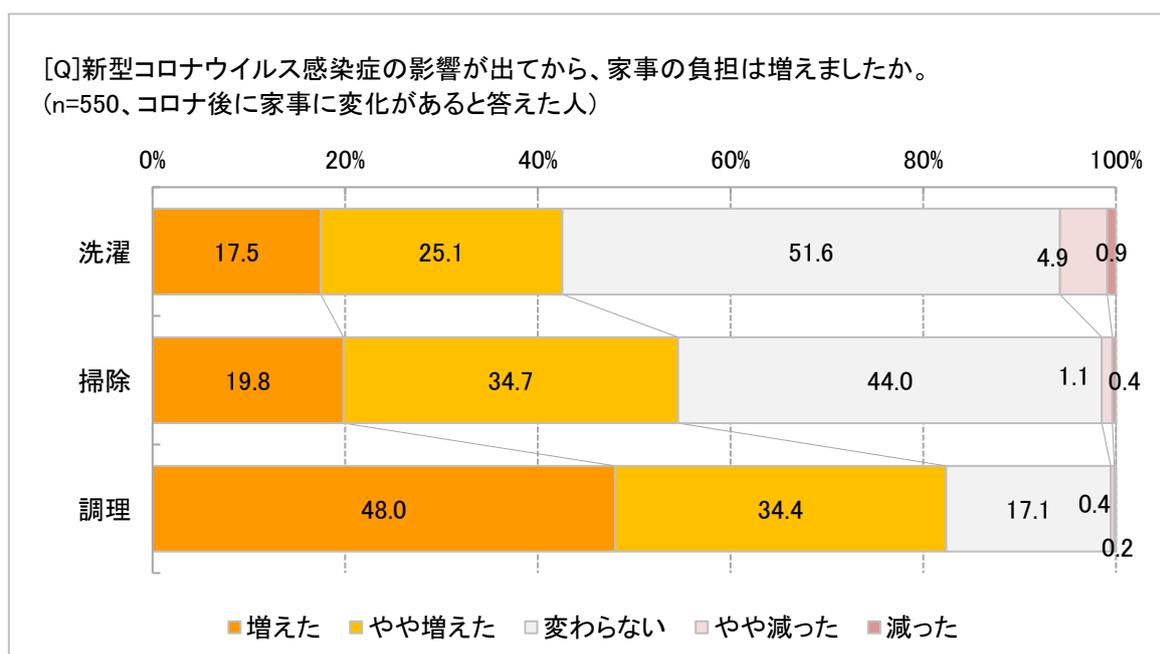
「オレンジページ暮らし予報」では、国内在住の20歳以上の女性を対象に「with コロナの暮らし方」について調査しました。新型コロナウイルス感染症の流行で、今の暮らしが「不安」と答えた人は83.1%。マスクや消毒液が手に入りにくい、仕事に影響が出るなど、日常のあらゆる場面で「困りごと」が増えるなか、「食生活」にも大きな影響が出ているようです。学校の休校や分散登校、テレワークの増加といった社会の流れのなか、家庭の食卓にどんな変化が生まれているかを調査しました。

【ダイジェスト】

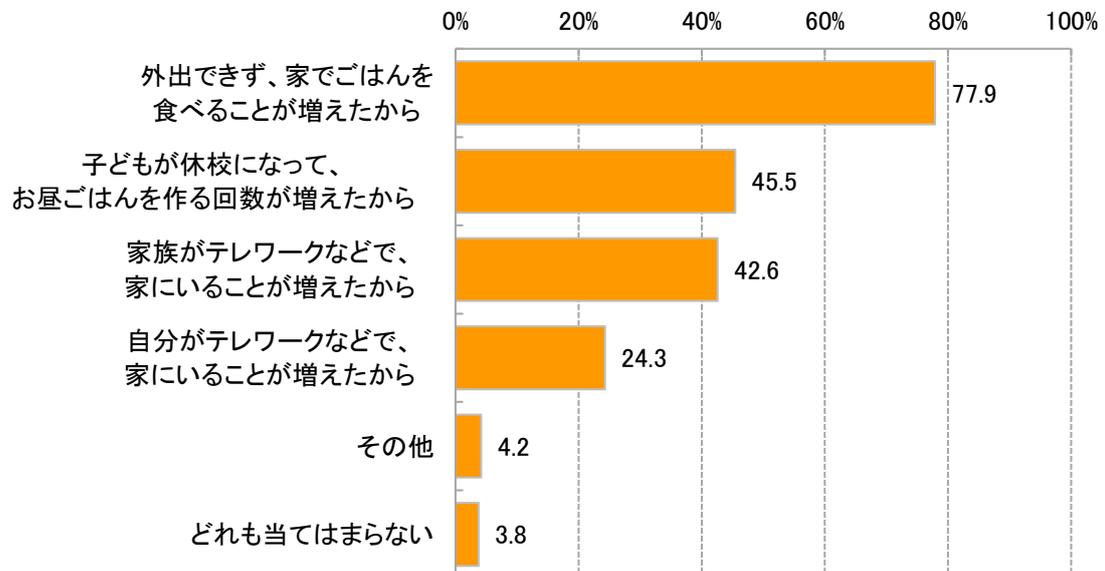
外食の自粛や休校、テレワークなどで、調理の負担が急増！

家事の手伝いが増えた割合、子ども 40.2%、夫 30.0%

STAY HOME で「ホットプレート」と「ホームベーカリー」が日の目を見た!?



[Q]調理の負担が増えた人にお伺いします。その原因はなんですか。
(n=453、調理の負担が増えた人、複数回答)



外食の自粛や休校、テレワークなどで、調理の負担が急増！

全都道府県に緊急事態宣言が発令され、不要不急の外出の自粛が呼びかけられていたゴールデンウィーク期間にこの調査は行われました。新型コロナの流行前に比べて、「食事」が変わったと答えた人は46.8%、「家事」が変わったと答えた人は38.2%でした。

いろいろある「家事」のうち、新型コロナ流行後に負担が増えたのは、「調理」がもっとも多く82.4%。「掃除」54.5%、「洗濯」42.6%に比べて、「調理」が突出して多いことがわかります。負担が増えた原因をみると、「外出できず、家でごはんを食べることが増えた」が77.9%、「子どもが休校になって、お昼ごはんを作る回数が増えた」45.5%、「家族でがテレワークなどで、家にいることが増えた」42.6%。STAY HOMEが呼びかけられ、休業する飲食店が多かったり、学校が休校になって給食がストップしたことから、家でごはんを食べざるを得なかった状況が、調査結果にもあらわれているようです。

自由回答でも、「給食がないので、昼食も作らねばならず、一日中キッチンに立っているような気がする」(40代・専業主婦)、「結婚して約5年、過去最高に料理をしている。早くコロナが収束してくれないと困る！」(40代・フルタイム)など、いつも以上に料理せざるをえず、「自炊疲れ」に陥っている人が目立ちました。

STAY HOME で「ホットプレート」と「ホームベーカリー」が日の目を見た!?

「新型コロナの影響で、利用することが増えた、あるいは新たに買った調理家電はありますか？」という質問の自由回答を、「ワードクラウド」(自由回答の内容から、出現頻度の高い言葉を選び、その頻度に応じた大きさで表現するツール)で分析してみると、興味深い実態が浮かび上がりました。

ひとつは、「ホットプレート」や「たこ焼き器」といった、「その場で調理して楽しむ」家電が活躍したという回答です。「少しでも調理を楽にしたいから、ホットプレートやたこ焼き器を使った」(40代・フルタイム)、「ホットプレート、ホットサンドメーカーを使って、子どもたちを楽しみながら調理させて、変化のある食事を演出した」(40代・パート)といった声が挙がりました。「その場で調理できる」手軽さや楽しさ、「家族に焼くのをまかせられる」ことが、コロナ禍による「自炊疲れ」の状況を、少しやわらげてくれたのかもしれない。

もうひとつ顕著だったのが、「ホームベーカリー」や「オーブン」など、調理時間が長くなる家電を活用したという回答。「ほとんど利用していなかったホームベーカリー。買い物に行く回数を減らしたので、手作りパンを焼きはじめた」(40代・専業主婦)、「オーブンで久しぶりにお菓子を作ったり、少し手のかかる料理に挑戦したりした」(20代・フルタイム)など、家にいる時間が長くなったことで、普段よりも手のかかる料理にチャレンジする傾向が見られました。ホットプレートや、ホームベーカリーを活用する傾向が、コロナ禍による一時的なものなのか、今後も続いていく傾向なのかは、まだわかりません。引き続き動向を見守りたいと思います。

新型コロナの流行は、物資の不足や外出の制限など、これまで想像していなかった事態を引き起こしました。しかし、「家族みんなで夕食を食べる生活って、いいなと思った」「在宅勤務になり、通勤が不要になってストレスが減った」など、当たり前だと思っていたことが当たり前でなくなる経験を経て、あらためて大切なものは何か、気づかされた人も多いのではないのでしょうか。この経験を踏まえ、今までの常識にとらわれずに、仕事と生活のバランスや、自分の暮らし方について見直してみる必要があるのかもしれない。

アンケート概要

- 調査対象: オレンジページメンバーズ・国内在住の20歳以上の女性(有効回答数1009人)
- 調査方法: インターネット調査
- 調査期間: 2020年4月29日～5月5日

●「オレンジページくらし予報」について

読者モニター「オレンジページメンバーズ」には、さまざまなくらし情報・くらし体験によってはぐくまれた“くらしの目利き”たちが数多く所属しています。そんなメンバーたちの声を集めてく次のくらし>を読み解いていくのが「オレンジページくらし予報」です。WEB上でのアンケート調査、座談会など、ご相談に応じて展開いたします。

●『オレンジページ』について

失敗なくおいしく作れるレシピ情報が支持され、今年創刊35周年を迎える生活情報誌。30～40代の主婦を中心に幅広い読者層を誇ります。発行部数=318,679部(2019年印刷証明付発行部数)。

この資料に関するお問い合わせ

株式会社オレンジページ

くらしデザイン部

kurashi@orangepage.co.jp Tel. 03-3436-8418